

学園だより



Vol.196

June 2019

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



特集

新学期を迎えて

巻頭言02 / 新学期を迎えて04 / 研究室紹介22 / 海外だより24 / 新任教員紹介26 / けいじばんコーナー29 / 編集後記30

自らを育むことのすすめ



弘前大学長 佐藤 敬

改めて、2019年度の新入生の皆さんを心から歓迎すると共に、大学入学に至ったこれまでの努力を称えて皆さんに敬意を表するものです。また、弘前大学が今年創立70周年を迎えることは入学式の告辞でも述べた通りですが、皆さんはこの伝統ある弘前大学の歴史を担っていただくことになったわけでもあり、そのことに感謝し、皆さんの今後に大いに期待するものです。

さて、資源に恵まれない我が国においては、未来を担う人材の育成が特に重要であるという主旨のことがよく言われ、人財という言葉も使われます。資源の存否にかかわらず、いかなる社会においても未来を担う若者はその存在自体が貴重であり、多少なりとも、人材育成に関係した仕事に携わることができるのを個人的には幸いに感じています。国として、人材育成に大きな力を注ぐことは最重要課題の一つであるという考えは、国民の大多数が支持するのではないかと思うものの、我が国の高等教育政策がそのような視点に立っているかは現状では疑問に思えます。しかし、そんな中であっても、あるいはそうであればこそ、皆さんに

はしっかりと自らを育んでいただきたいと願っています。

自らを育むとは、具体的にどういうことか、私自身の思いとしては、いくつかのキーワードが浮かびます。

第一に、自主的に学ぶことです。その内容としては、単に教育の一手法としてのアクティブラーニングを想定しているものではありません。本来、学問は無限であり、大学における学問はまさしく学問の本来の姿を体現したものでなければなりません。高等学校までの学問も、以前に比べると大きく変わってきてはいますが、ある種の目的の下に、一定の範囲の中で学んできた部分が間違いなくあると思います。大学では、カリキュラムに従って勉強することをおろそかにしてはならないものの、しかし、それにとどまることなく、自らの力でどんどん学問を進めていかなければなりません。例えば、授業で指定される教科書や参考書があったとしても、おそらく、そのすべてをカバーするような授業はむしろ少ないと思います。そんな中から、あるいは皆さんが独自に、自らの興味や問題意

識を持って積極的に取り組み、教員のアドバイスや学内外の資料などを駆使して、自ら学ぶことが重要です。多くの場合、明確な答えに到達しないかもしれませんが、その過程こそが学問の本質です。学問の多くは過程で終わるのであり、明確な答えに至るのは幸運な一部にとどまるのです。そうであればこそ、学問に取り組むことは喜びに満ちていると思えます。

第二に、学生生活の中で多様な経験を積むことです。もちろん、私たちは年齢を重ね、社会経験を経るにつれて、多くの新しい情報に接し、知識を深めていくのが自然の流れではありません。学生生活の中では、勉強がその中心にならなければなりません。しかし、それにとどまることなく、皆さんには自ら求めて多様な経験を積んでいただきたいと思えます。例えば、弘前大学生の大多数がなんらかの課外活動に参加しており、運動系・文化系サークルのほぼすべてが存在します。多くの学生が複数のサークルに所属しているようです。また、弘前大学ボランティアセンターに登録している学生は、自治体や市民団体などと連携してさまざまな活動を行っています。東日本大震災に際しては岩手県野田村で弘前市民と共に復興活動に従事し、現在も形を変えて活動を継続しています。ボランティア活動を実施している団体は他にも多数あり、それぞれ、一定の目的を持って活動しているようです。これまで既にボランティア活動を経験してきた人も多いでしょうが、ボランティア活動を通じた学びの成果には図り知れないものがあるのではないのでしょうか。そして、毎年10月末には弘前大学総合文化祭が開催され、学生と教職員が共に参画し運営していますが、学生の自主的運営によるイベントが中心で、学祭本部実行委員会も本学における主要な課外活動団体の一つになっています。そこでの経験は、将来大いに役立つものかもしれませんが、なにより、充実した学生生活の一コマになるものと確信します。さらに、弘前大学の授業の一部やインターンシップなどでは、地域の企業や自治体の方々と接する機会も多数用意されており、そのような機会にも積極的に参画して下さることを切望しています。

第三に、多くの友人を持つことです。皆さんには、

これまでも大切な友人がおられるでしょうが、是非、大学でも新たな学友を得て下さることを願っています。弘前大学には、全国からの学生が集まっており、また海外からの留学生も徐々に増えつつあります。留学生を含め、さまざまな考え方や、趣味、経験などを持った学友との交流も貴重な経験になるのは間違いありません。そのような機会は、これまでに比べると飛躍的に大きくなるはずですが、学友だけでなく、弘前大学には広範な学問を目指している多彩な教員が在籍しています。友人の範疇には入らず、また学問に関連したことが中心になるとは思いますが、私自身の教員であった以前の経験から言うと、学生の側から積極的に交流を求めてくださるのは嬉しいことです。

第四として、是非、書に親しんでください。スマホやパソコンで十分な情報が得られるので、本を読む必要がないというような発言をテレビ番組の街頭インタビューで観たことがあります。間違いなく、スマホやパソコンのお陰で必要な情報が簡単に得られる時代になりましたが、そのことは読書に代わるものでは決してありません。例えば、青森県に生まれた偉大な文学者の一人である寺山修司が著した「書を捨てよ 街に出よう」という随筆があります。これは、本など読まずに街に出ることを勧めているのではなく、たくさん本を読んだ上で、街に出ることを勧めているのです。あくまで私見ですが、私たちの思考を司る神経回路は、簡単な経験では確立されず、直ぐに使われなくなります。よく分からないことを分かっていながら、あるいは、小説に書かれた光景を具体的に想像しながら等々、極論すれば呻吟しながら、物事を考えるのが読書です。簡単に理解できるような事柄は最早たいした役に立たないか、あるいは身に付かないものです。

最後に、ある意味では、教育的なことを縷々述べて来ましたが、皆さんの学生生活を造るのは皆さん自身であり、上に述べたことが多少なりとも皆さんの役に立てば幸いだという思いです。なにより、弘前大学生としての皆さんの今後の日々が、幸福に満ちたものになるよう心から願っています。でも本当に本は読んで欲しいです。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

人文社会科学部長の今井と申します。専門は西洋古典学（ヨーロッパの文化的源流にあたる西洋古典古代—古代ギリシア・ローマの原典を研究する学問）です。よろしく申し上げます。

弘前大学人文社会科学部（Faculty of Humanities and Social Sciences）は、2016年4月に人文学部（当時）から改組され、本年度で四年目を迎えました。本年4月には、総勢287名の新入生を本学部の第四期生としてお迎えすることができました。

学部長としては、嬉しいかぎりであります。皆さんを心より歓迎いたします。

人文社会科学部は、北東北地域の人文社会科学系の主要な教育研究拠点の一つとして、人文社会科学を志望する学生、海外からの数多くの留学生をお迎

る上で、とても重要なことであると考えます。

学業生活に関しても、同じことが言えます。弘前大学での皆さんの学業生活が数多くの先人たちによって積み上げられた学問的伝統の上に成り立っていることを自覚しながら、現在（いま）を生きることは、皆さん自身の現在の立ち位置を明確にするのに、大いに役に立ちます。それは皆さん各人の夢を夢にとどめるのではなく、希望を希望のままに終わらせることなく、確実に未来を志向する上で必要なことであります。

わたくしは、1996年4月に、人文学部（当時）に西洋古典学の専任教員として赴任してきました。北国特有の厳しい自然環境の中で、多くの先人たちによって長い年月をへて育まれてきた豊かな歴史と文化に深い感銘を受けました。

過去から学び 未来を見すえ いま 現在を生きる — 新入生の皆さんへ —

えし、人文社会科学を学究するための場を提供しています。その前身は、1920年（大正9年）に創立され、若き日の太宰治（津島修治）も学んだ官立弘前高等学校であります。

弘前大学附属図書館には、官立弘前高等学校の在学時に、太宰治が受けた講義の自筆のノート類が所蔵されています。弘前大学資料館には、本学に縁のある貴重な資料類が多数展示されています。それらからは、本学が今日までになってきた学問的伝統の重みを実感することができます。ぜひ足を運んでいただきたいものです。

伝統の重みなどと言うと、自分自身の将来に対して夢と希望に大きく胸を膨らませている若い人たちにとっては、懐古趣味のような印象を与えるかもしれません。しかし、人生の節目において過去を振り返ることによって、わたくしたちがどれほど多くのものを先人たちから受け継いでいるかを正しく理解することは、皆さん各人が自分自身の未来を見すえ



[人文社会科学部長]

今井 正浩

皆さんにお伝えしたいのは、青森県の地方色豊かな文化をはじめとして、いかなる文化も、短期間のうちに現在のようなかたちに発展したのではないということです。「ローマは一日にして成らず」という諺は有名ですが、皆さんが何気なしに立っておられる地面にしても、太古の時代から人々や物が行き交うことによって、長い歴史を刻んできたという事実があるということです。

皆さんは、北東北の文化の香り豊かな弘前市で大学生活を送られることになるわけですが、先人たちが築いた歴史の重みを実感しつつ、真摯（しんし）に勉学に励んでいただきたいものです。

弘前大学で、皆さんが充実した大学生活を送られることを心から願っております。



令和という新しい時代の幕開けと時を同じくして、皆さんの大学生活は始まりました。今、皆さんの前には、高校時代とは全く異なる新しい景色が広がっていることでしょう。

さて、皆さんは、大学に何を求めて入学をしてきましたか。教育学部の皆さんの多くは、教職に就くための専門的な学びをするためだったり、自分の興味・関心のある領域についてさらに深い学びをするためだったり、様々だと推察します。いずれにせよ「大学での学び」を核にし、将来に向けて自分をブラッシュアップしようとする心構えは同じだと思います。

そこで、「大学での学び」、すなわち、「大学生活において自分という人間のブラッシュアップをどのように具現化するか」を、この機会に一緒に考えてみましょう。

結論から述べますと、「最初の1年」に自分がや

ことができます。また、大学という「空間」は多様な学問的な取り組みや人間形成に関わる活動に対しほとんどのものを許容するとともに、そのための施設や設備が整っています。そして、そこには目指す方向性が同じ仲間、目指す方向や考えは異なるが同世代の多くの仲間など、一緒に行動したり考えを戦わせたり、情報を共有・交換できる「仲間」がいます。

これからの社会は、これまでの経験や既存の知識だけでは解決の難しい、答えのない問題への対応に迫られます。このような時代の社会では、決められたことを効率よく覚えてこなす人材ではなく、主体的に考えて自ら課題を発見し、周囲と協力して行動できる人材が必要とされます。それぞれのもつ知識や情報を他人と共有し、そして常に学び続け、学んだ知識を統合し、問題を発見・解決できる力。そして、思考力や判断力、表現力を駆使して、多様な

「最初の1年」を大切に

ろうと決めたことや目の前にある物事に一生懸命に取り組むことです。そして、その過程で出会う人と繋がることです。これまで多くの学生の皆さんの様子を注意深く見守って来て、「最初の1年」の過ごし方が、その後の大学生活に大きな影響を与えることがわかりました。

まずは「最初の1年」、授業・課外活動・アルバイト等、日々の取り組みに真正面から向き合い、その中で見えてくるもの、自分の中に芽生えてくるものを大切にしながら、それを積み重ねていくことです。

そしてさらに、人との関わりを大切に、多くの人と繋がることを心がけてみてください。1年間の日々の取り組みの中での一つ一つの出会いを大切に、積極的に関わることにより、知らなかった自分に出会ったり、自分が求めるものが何かであったり、いろいろな気づきがあるはずです。この気づきは、新しい自分の発掘に繋がり、自分の視野を広げ、自立的な学びのための礎になります。

大学は、どんなところと聞かれたら「自らをブラッシュアップ」できる「環境」、すなわち「時間」と「空間」があり、そして「仲間」がいるところだと答えます。大学における「時間」は、自分で自由に組み立てることが許されており、その多くを自分のために費やす



〔教育学部長〕

戸塚 学

人々と協働する姿勢が求められます。

大学生活の4年間は、皆さんが想像している以上に早く時間が過ぎます。私自身、この3月に7名のゼミ生を送り出しましたが、大学生活において、1年次が最も長く感じられ、2年次の後期以降は、まさに「光陰矢の如し」、あっという間に時間が過ぎた事を皆が口にしていました。このようなことは高校でも経験されていることと思います。学年進行に従い、時間が加速するように感じられる4年間ですが、自らの行動や考えにより「時間の使い方」「自分を取り巻く環境」「ともに学び合う仲間」が如何様にも変化します。それが大学というところです。

「最初の1年」を大切に、その後変化する自分を楽しみつつ、有意義な「大学での学びの実現」がなされることを期待します。

古くから日本の美といえば「雪月花」ですが、弘前には美しい四季があり日本一の桜があります。今や日本では数少ない城下町で学ぶことができる新入生の皆さんには、本当に豊かなもの、美しいものに出会ってほしいと思います。

弘前大学医学部は1944年に青森市に設立された官立青森医学専門学校を母体としています。この青森医専は戦災により焼失しましたが、弘前市に移転して命脈を保ち、1948年には弘前医科大学に昇格し、1949年に現在の弘前大学医学部となりました。東北では二番目に設立された医学部であり、これまで医学科では6,662名の卒業生を世に送り出してきました。

大学は「学問」を経験、実践する場です。学問というものは蓄積された知識が互いに結びつき一つの

療の世界にもAIが導入されてゆくでしょう。しかし、医療を行うのが人間であるならば、そこには「科学」と同時に「情緒」も必要であると思うのです。医学に限らず世の中には「解答がない」あるいは「解答が複数」ということがあります。そのような問題を解決するためには、知力よりも情緒がまることがあります。常識や倫理観の元にも無意識の感情があります。

蘭学者で医師であった緒方洪庵（1810～1863年）は大阪大学の前身である適塾を開き、多くの門弟を育てました。彼はベルリン大学フーフランド教授による内科学書を二十年以上の歳月をかけ、全三十巻となる『扶氏経験遺訓』に翻訳しました。フーフランドの原書には「医戒の大要」と題する付編が添えられていたのですが、その考えに共鳴した洪

情緒は創造を生む

体系を形づくった時に、その本質が見通せるようになります。したがって、理解できたことに喜びを感じ、より難しいものに挑戦してゆくようになるのです。そのためにも、これから最も重要なことは「自ら学ぶ」ことであると思います。何が問題か、その解決にはどうすればよいかを「学び問う」ことができた人は、さらに「研究」へと発展させてほしいと思います。

医学は科学の一分野です。したがって、すべての医師は同時に科学者や研究者であってほしいと思います。ただ、科学がすべてかということ、私はそうは思いません。科学と同じように重要なものがあります。それは「情緒」です。臓器移植や遺伝子治療は科学技術の進歩によるものです。しかし、それを可能にしたのは、命の尊さや儻さを思い、人体の不思議を感じた人達の「情緒」であると思います。私は科学を否定するものではありません。むしろ医学や医療の発展には科学の進歩が不可欠です。今後は医



[医学部長]

若林 孝一

庵は、その部分を抄訳して十二条にまとめ、適塾のモットーとして掲げました。その第一条を司馬遼太郎は次のように現代語訳しています（『洪庵のたいまつ』から引用）。

医者がこの世で生活しているのは、人のためであって自分のためではない。決して有名になろうと思ふな。また利益を追おうとするな。ただただ自分をすてよ。そして人を救うことだけを考えよ。

卒業式では皆さんの大きく成長した姿が見られることを願っています。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

入学時の皆さんの期待にあふれる表情、キラキラと輝く目を見て、皆さんを保健学科学生として迎え入れたことを本当に嬉しく思いました。入学時の気持ちを忘れずに、これから充実した学生生活を送って頂きたいと思います。

ここ弘前市は、おいしいリンゴの産地として大変有名ですが、欧米では、リンゴが大学や教育のシンボルとされている事を皆さんはご存知でしょうか。リンゴを輪切りにしますと中心の種のあるところが星型に見えます。そのため、リンゴを輪切りにするのをスターカットというのだそうです。リンゴと同じように、皆さんの一人一人の中にも将来星のように輝く素質が秘められており、その素晴らしい素質を見つけ、磨き、光り輝くように導くのが教育や大学の役割であるため、リンゴが教育のシンボルとなったそうです。

歓迎の言葉

私達教職員は、皆さん一人一人が素質を伸ばし、新しい令和の時代を担う立派な卒業生として巣立っていただける様に精一杯指導や手助けを致しますので、皆さんも自分の目標を持ち努力をしてください。

皆さんはこれまでも自ら勉学に励み、合格通知を手にしたことと思いますが、励まし支えてくれたご家族や友人、指導して下さった先生方への感謝の気持ちも忘れないでいただきたいと思います。さらには合格できずに涙をのんだ受験生がいたということも心の片隅に置き、弘前大学の学生であることに誇りをもち、恵まれた環境を生かして、研鑽されることを期待しています。

保健学科は医療系専門職の教育を行う学科ですので、皆さんはそれぞれの専門職を目指して学業に取り組んでいくことになります。各自が目指す専門職の国家試験を受験するためには、卒業までに必修科目である講義や実習の単位を沢山取得しなければなりません。国家試験は資格試験であり競争試験ではありませんし、合格率100%を目指し互いに助け合いながら学業に励んでいただきたいと思います。また、学業だけではなく、部活動、サークル活動、ボランティア活動など、学業以外の活動へも皆さんの能力を余すところなく発揮し、多くの経験を積み、沢山の思い出を作ってください。ぜひ他の専

攻や他学部の友人も作り、職種によるアプローチや考え方の違い、また患者さんや一般の方の気持ちも理解できる、広い教養や見識、思いやりの心を身に付けていただきたいと思います。以前、私と同様に放射線技師養成教育に携わっている他大学の教員から、“保健学科の隣に大学病院があることはとても恵まれていることなんですよ。医療従事者の卵である学生にとっては、通学の際に具合が悪い患者さんが通院する様子を見る事も色々なことを学べる貴重な機会なんですよ。”と言われ、この保健学科が恵まれた環境にあることに改めて気づかされたことがあります。自分が健康であると患者様の複雑な気持ちに思い至らないこともありますが、医療職に就くための素養を学生時代に備え、巣立って行ってください。

大学での講義時間は90分と長く、教わるだけでなく自ら学ぶ姿勢も必要とされます。また、皆さんの中に



[医学部保健学科長]

齋藤 陽子

は親元を離れ寮生活や一人暮らしを始めるなど生活環境が変わった方もいることでしょう。このような変化に早く慣れ、体調管理にも気を付けて、有意義な学生生活を送っていただきたいと思います。弘前は歴史のある城下町で都会のような喧噪もなく、街の大きさも学生生活を送るには適しているのではないのでしょうか。弘前公園の桜は皆さん堪能されたと思いますが、ほかにも弘前周囲には豊かな自然もありリフレッシュできます。皆さんがいわゆる“五月病”にはならない事を祈るばかりですが、万が一ホームシックや五月病にかかった際には、一人で塞ぎこまず是非周りの友人や家族などに相談して下さい。また、周りにその様な同級生がいたら、是非優しく声をかけてあげてください。

新入生の皆さんの学生生活が真に実りあるものになることを期待し、学科長からの歓迎の言葉とさせていただきます。

新入生の皆さん、あらためてご入学おめでとうございませう。新しい環境での生活も数週間が経ちました。期待していた大学生活を送ることができているでしょうか。現実の中には、思い描いていた理想とは違っていてもあると思いますし、一方で思いもしていなかった機会があることにも気づかれたのではないかと思います。

私が大学生として過ごした1980年代の大学は、平成の前、昭和の時代でもあり、今の大学とはいろいろと違っていました。いろいろなことが野放図にされていましたが、別の言い方をすれば一人一人の自覚と責任に委ねられていることが少なくなかったと思います。授業もおおらかなものでしたが、今思えば大変に高度なもので、わかったような気がしたのはごく一部の内容でした。それぞれの講義の奥の深さに気付いたのは授業を聴いたしばらく後のことで、中には数年を経てようやくそのことに気付いた

強を進めることができるように思います。今の大学の授業では、演習科目等を中心として、ティーチングアシスタント（TA）と呼ばれる皆さんの先輩が教育の支援に取り組んでいます。このしくみは、今でこそ一般的なものでどの大学でも制度として運用されていますが、私が学部の学生の頃にはこのようなくみはなく、四苦八苦しながらの勉強でありました。制度としてのTAのしくみが整えられる前に、私は大学院生としてTAと同じ役割の演習の補助業務を経験することができました。大学院生を授業の補助業務に就かせることは、当時は新しい試みで、授業を担当する先生（当時は教官と称しました）にとっても、授業を受ける学生にとっても、補助をする私にとっても、上手くできるものなのか未知の取り組みでもあったのです。当時は、ちょうど情報処理教育の重要性が国全体の問題として認識され始めたころで、情報処理の演習科目が必修科目

新入生の皆さんへ

科目も少なくはありません。

当時の大学の課程は、専門教育の課程の前に、定められた期間の教養教育の課程を修める必要がありました。入学後の一年目は専門教育の授業はなく、教養教育の講義では、大学生として学ぶべきこととして設定されたいろいろな分野や科目を勉強する必要がありました。文科系の科目が少なくありませんでしたが、それぞれの分野をご専門とする先生方が理工系の学生が相手といえども手を抜くことなく高度な内容を講義されるものですから大変に難しく、合格の認定をもらえるものか大変に気を揉んだものです。今、教壇に立つ立場となって改めて思い起こしてみると、当時の先生方は、どの分野を学ぶ学生に対しても自分の専門分野を理解してもらいたいという強い思いをお持ちであったのかなと想像できます。合格の認定がまずは気になる教養教育の勉強でしたが、これらの科目を学ぶことに大切な意味があることになかなか気付くことができなかつたのが、若かつたということなのかもしれません。

大学の課程で勉強することは、決して簡単なことではありません。ちょっとした気づきが深い理解のきっかけになることもありますし、わずかな誤解が理解の前進の障害になることもままあることです。気楽に訊くことのできる人が近くにいと、楽に勉



[理工学部長]

佐藤 裕之

となりはじめたところでした。新しい授業と新しい取り組みで、結果としては大変うまく進めることができましたが、私をもっとも強く印象に残っているのは、授業を担当された先生の私に対する大変に丁寧な対応でした。自信と忍耐をもって教えることの大切さに気付くことができたのは、単純に「教える」ことの経験の機会を得ることができただけでなく、その難しさも承知しておられた先生の紳士的な振る舞いも傍で目にするのができたからであったと思います。

教えることの経験は、自らの理解を一層深めることにもつながります。新入生の皆さんも、やがては人に教える立場に成長することが期待されています。大学での学修の経験を、将来の指導者としての糧として生かすことができるような、そして20年30年を経たのちに、よい大学時代を過ごしたと振り返ることができるような大学生活を送ってほしいと願っています。

御入学おめでとうございます。

令和と元号が変わった年の入学生となった皆さんを、大いに歓迎したいと思います。弘前は、りんごとさくらとお城で有名な城下街です。今年は、弘前公園の桜祭りが開始されてから101年目になる記念すべき年です。弘前の地は、春の桜祭り、夏にはねぶた祭り、秋には世界自然遺産白神山地や十和田八幡平国立公園などの紅葉、冬にはスキーなどのスポーツが楽しめます。梅雨や夏の暑さも仙台以南に比べ優しく過ごしやすい恵まれた環境で、勉学に専念できる良いところです。

皆さんは、本学部で夢や希望を抱いて入学されたと思います。本学部は、多様な教員が教育研究を

は、この大学で学んで良かったと言う感想を聞いております。不安等があるかと思いますが、物事を前向きに捉え、このような良い環境で勉強できることに感謝し、有効な時間を過ごすことを期待しております。こうした夢の実現あるいは夢を見つけるために、多くの本を読み、友人と語り合い、自身の内面あるいは夢の中身を充実させてください。

人生100年時代という言葉が、聞かれるこの頃です。これまでの定年退職の60歳と言う概念も変わりつつあります。既に会社によっては、定年廃止のところが出てきているようです。皆さんは、少なくとも65-70歳まで現役として活躍することになると思います。夢の実現は、じっくり時間をかけてかなえ

夢を大切に

行って、皆さんの指導に当たっております。そうした先生方を大いに活用し、自分の夢を叶えるようにしてください。直ぐに叶わない夢も多いと思いますので、その夢に4年間あるいは大学院も含めて6年間取り組み、少しでも近づけるように努力してください。きっと有意義な学生生活になると思います。この夢の実現には、友人や先輩あるいは、インターシップ先などの出会いが役に立つこともあるでしょう。出会いは、思いもかけない人生をもたらしてくれたりもします。皆さんの夢の達成への一助となるように、教員も協力して行きたいと考えているので頑張ってください。中には、明確な夢や希望をもたずに何となく入学された、あるいは不本意な理由で入学された方もおられるかもしれません。毎年一定数の方がこのような状況で入学していることも感じられます。しかし、卒業あるいは大学院を修了時に



[農学生命科学部長]

佐々木 長市

ることになるかもしれません。「ローマは1日にしてならず」という諺のように実現には、夢を追い続ける努力や気力が大切になると思われます。

皆さんもそれぞれの夢を大切に、実現に向けて、いろいろなものに挑戦する4年あるいは6年であることを期待しております。

最後に、新しい暮らしの始まりに際し、このような勉学の機会を与えてくれた両親や先生方に感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。



…………… 特集 ……………

新学期を迎えて



人文社会科学部
社会経営課程1年
鈴木優織

弘前大学に入学して

ここ弘前での暮らしを始めてから早くも一ヶ月が経ちました。地元を離れ期待と不安の中で始まった新生活を送るなかで、今まで当たり前のように世話をしてくれた親のありがたみをしみじみと感じています。

さて、現在私は「どれだけ新たなことに挑戦できるか」ということを目標に過ごしています。というのも私は生来の引っ込み思案のために今まで自分から行動ができず、ずっと損をしている気分でした。しかし入学時とうとう決心をし、「ここでやらなきゃ二度とやらないぞ」と自分に言い聞かせました。そこで四月には様々な部

活やボランティアサークル、学生委員会の体験会に出向いたり、かねてから挑戦したかった語学関係の講義を可能な限り履修するなどをしました。中には挑戦はしたものの自分には向いてないと感じやめてしまったものもいくつかあります。しかし、今まで自分が関係ないと思い込んでいた世界を垣間見るといことはとても良い体験となりました。大学生活はまだ始まったばかりですから、未知のことは当然多いと思います。それらを知ることのできる期待感を胸にこれからの四年間を大切に過ごしていきたいと考えています。



人文社会科学部
文化創生課程1年
諫山莉奈

4年間で

期待と不安でいっぱいだった入学式から約ひと月が経過し、良い友達とも出会い、新しい生活にも徐々に慣れるようになりました。高校時代には「大学4年間はあつという間だ。」とよく両親や先生方から聞いていました。これまでの一ヶ月は本当に早かったです。有意義な4年間を送るため、私は大きな目標として、海外への留学を積極的にしたいと考えています。将来のための語学勉強としてはもちろん、様々な国の文化や風習を学び多くの人と関わることで視野を広げ、教養を身につけたいです。同時に日本についても発信する機会を得られると嬉しいです。また入部した探検部でも貴重な経験を経て、たくさんの思い出を作りたい

です。登山や洞窟、川での活動はとても楽しみです。

大学生生活の充実度は自由時間にかかっているとも言われるので、色々挑戦したいものの、一人で暮らすことに慣れていないので、料理や洗濯など、ひとつひとつをやり終えるのに時間がかかってしまいます。家事ってこんなに大変なんだなあと思うばかりです。先輩方のように効率よく進められるようになったら、アルバイトでお金を扱うことを学びたいです。弘前大学に入学して良かったと思えるような大学生活にできるよう頑張っていきます。



人文社会科学部
社会経営課程1年
三上紗英

弘前大学に入学して

入学してから約一ヶ月がたちました。弘前大学で様々な人や考え方に触れた今、私は、地域に活力を与える活動をしたいという想いが強くなりました。

私がこのような考えを持ち始めたのは、弘前のサッカーボランティアに参加したことです。その組織は、サッカーを通じて人をつなぎ、地域に活力を与えることを活動理念として掲げています。またその目標達成のために、様々な経営を行っていました。組織のそうした側面に触れて私は、感銘を受けるとともに、自分もこのような活動を

たいと強く思いました。

そのために私は、まず弘前大学で経営に関する知識を習得したいと考えます。それに加え、弘前大学が行っている様々な地域貢献活動に積極的にに関わり、地域の現状を把握していきたいです。また、そのボランティアの継続だけでなく、サークルやアルバイトなどの課外活動を通じて、コミュニケーション能力も身につけたいです。地域に貢献できる人材になれるように、視野を広げて、大学生生活を過ごしていきたいと思っています。



人文社会科学部
社会経営課程3年
會川大夢

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新学期が始まり、数ヶ月経過しましたが、大学生活に慣れることができたでしょうか。大学生活はとても自由です。自分がやりたいことに使える時間が、今までの学生生活と比べて一気に増えると思います。その時間を何に当てるかも自由ですし、その自由な時間を有意義なものにできたらとても充実した大学生活を送ることができるでしょう。講義を取る、取らないも自由ですし、自分がなんのゼミに入って、どんな領域を学ぶのかも自由に選択できます。私生活はもちろん自由です。しかし、自由なことが増える一方で私は、大

学では自分自身に学生生活の責任が帰属すると思っています。自由だからといって遊んでばかりいたり、とるべき講義を取らないでいたりすると後でツケが回ってきます。自由な時間を有意義なものにするには、前述したとおり自分がやりたいことをすればいいと思います。まず1年間で自分がやりたいことを見つけてみるのはどうでしょうか。やりたいことが見つければ、やるべきことがわかり、学生生活は充実すると思います。

最後になりましたが、皆様が充実した学生生活を送ることができるように心から願っています。



人文社会科学部
文化創生課程3年
齋藤莉帆

自分を見つめる4年間に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活には慣れてきたでしょうか。私から皆さんに言えることは多くはないですが、少しだけお話ししたいと思います。

私が皆さんに伝えたいことは二つあります。まず一つ目は、挑戦することです。一年が経つのは本当にあっという間です。そんな中で皆さんはどんなことがしたいですか？今思い浮かんだものはありますか？初めてのことに挑戦するときは勇気が必要ですよ。でも一歩踏み出してしまえば確実に皆さんの視野が広がり、新たな自分に出逢えたりします。時間を大切にしてください。

二つ目は出会いを大切にすることです。友人、

先輩、先生、留学生などたくさんの人との出会いがあります。人の話を聞くことはとてもいい刺激になります。その人の話を聞きながら自分について振り返り、考える時間が生まれます。自分を高めてくれる人が近くにいるかもしれません。

今、自分は将来何がしたいのだろうかとよくわからない人もたくさんいるのではないのでしょうか。焦る必要はありません。大学生活は自分を見つめる期間でもあります。たくさんの人と触れ合い、話をして、挑戦して経験値を上げ、「自分」というものを探してみてください。皆さんの大学生活が充実しますように、心から願っています。



人文社会科学部
社会経営課程3年
佐藤なつみ

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、大学生になって数ヶ月が経ちましたが新しい生活には慣れてきましたか？

大学生活は今までの学生生活と比べて格段に自由です。大抵のことは自分の判断だけで出来るようになります。さらにプライベートの時間も今までより確保しやすいと思います。自分のために使える時間がたくさんある大学生の今だからこそ、いろいろ経験してみることをおすすめします。アルバイトやインターンシップ、留学、旅行など興味のあることには積極的に挑戦してください。その過程や結果から得たものはきっと将来の役に立つはず。私の場合は居酒屋でのアルバイトを通じて、働くことの大変さや能動的に動くことの

必要性を学んだり、働くことに関する自分の向き不向きを見つけたりと社会経験を積みながら自分と向き合うことができました。現在、来年の就活に向けて少しずつ準備をしているのですが、この経験が自己分析や業界研究をする際に役に立っていると感じています。

あと少しで長い夏休みが始まります。夏休みは何かを始めるのに適した時期です。もし今、やろうかどうか迷っていることがあるのなら夏休みを機にぜひとも挑戦してみてください。大学を卒業するときに後悔しないようにたくさん経験してください。



教育学部
学校教育教員養成課程1年

小山内 大吾

有意義な4年間のために

今年は4月に入っても雪が降り、天気の悪い日が続きました。入学式も雨が降るなか行われましたが、先生方や多くの先輩方に明るく歓迎され、私たちの大学生活が始まりました。

私は小学生の時、担任の先生に影響を受けて教師になりたいと思うようになりました。また、地域のボランティア活動に参加した時、子どもたちと遊んだり触れ合う機会がありました。子どもたちはいろいろなことに興味を持ち、何でも私に質問してきました。

私も教えることが楽しいと感じ、感性が豊かで発達段階にある子どもたちに自分なりの言葉で何

かを伝えてみたいと思うようになりました。そして子どもたちの将来のために、個性を伸ばせる教師になりたいと考えるようになりました。

これからの4年間は教職関係の実習などでさらに忙しくなっていくと思います。しかし自分の夢のために真剣に取り組み、経験を積んでいきたいです。また高校から続けてきたストリートダンスも、サークルやスタジオで必死に練習し、より高みを目指せるように努力したいと思います。

弘前大学で学べること、多くの仲間と日々を過ごせることに感謝し、実りある大学生活を築いていきたいです。



教育学部
学校教育教員養成課程1年

大隈 邑佳

大学進学に際して

私は今年の春、一般入試で合格をいただき弘前大学の一員となりました。学部、学生寮、部活動、大学外でのアルバイトなど、様々な集団に所属し、大学に入学してから交流の和が大きく広がりました。自然いっぱいの青森県弘前の地で、先輩や同期、教授にも恵まれ、大学進学をきっかけにしてお互いを高め合える大切な仲間に出会うことができました。県外からの進学のため、地元から遠く離れた弘前で大学生活を送ることに不安はありましたが、面倒見の良い先輩方や親身に話を聞いてくれる同期など、弘前に住む人たちの温かさに触れ、不安が段々小さくなりました。大学生

活が始まってからまだ日も浅いですが、大学の雰囲気だけでなく、津軽弘前の雰囲気も好んで、進学先を弘前大学に決めて良かったと思っています。

私は、教員になるという夢を叶えるために大学進学を決めました。そのため、目標である教員採用試験合格に向けて、弘前大学で過ごす4年間に有意義なものとなるよう努力を惜しまず、たくさんの方に挑戦して、弘前ならではの行事や伝統に触れ、色々な経験を積み、この大学を卒業するときには「充実した4年間を送ることができた」と思えるように全力を尽くしたいです。



教育学部
養護教諭養成課程1年

青木 一未

かけがえのない経験を

入学からの目まぐるしい1か月を終え、ようやく講義も本格化してきました。最初のうちは、親元を離れての一人暮らしや分からないことの多さで不安に包まれていましたが、現在は友達もでき楽しく生活を送っています。

私は高校生時代、弘前大学を志望してから1度も志望校を変えることはありませんでした。それは弘大の養教課程で学びたいと強く思い続けていたからです。養護教諭になるための知識はもちろん人間性も、同じ夢を志す仲間たちと共に経験豊富な先生方のもとで得ることができる環境が整っています。ですが、環境が整っていても自分が動

かなければ何も得ることはできません。成功も失敗も自分に起こることすべてが成長のための糧だと思いながら、様々なことに臨んでいきたいです。

また、大学生はサークル活動・バイト・旅行など自分がしたいことを選択して行動することができる自由さも持っています。自分らしさを深めたり、社会経験を積んだりするためにも今持っているエネルギーを惜しむことなく使って、勉学以外の面でも多くのことに触れていきたいです。

つまらない4年間だったと後悔しないようにこれからの生活を送っていきます。



教育学部
学校教育教員養成課程3年
佐々木 茜音

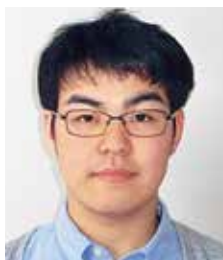
充実した大学生活を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これまでとは生活ががらりと変わったことと思いますが、大学生活にはもう慣れたでしょうか？

大学生になると、授業やサークル、バイトなど自分で決めることが多くなり大変なこともあると思いますが、その中には自分のためになる経験や様々な人との素晴らしい出会いがあると思います。その経験や人間関係は、自己責任の部分が大きい大学生活で大いに生かすことができると思います。私自身、同じ学部で仲良くなった友達やサークルやバイトの先輩に様々な場面で助けてもらうことがあります。自力で解決するのはもちろん大

切ですが、時には周りの力を借りることが大事になってきます。そのために、授業やサークル、バイトなど自分が興味のあることにどんどん取り組み、人間関係の輪を広げてみてください。

また、大学生活は4年間ありますが、あっという間に過ぎていきます。私は最初の2年間が一番したいことを存分にできる期間だと思います。3年生になれば実習が始まり、4年生では就活が始まってしまふからです。なので、1年生の皆さんは充実した大学生活を送れるよう、自分が何をしたいのか考えて行動してみてください。そして、失敗を恐れずチャレンジしてみてください。素敵な大学生活を送れることを願っています。



教育学部
学校教育教員養成課程4年
三浦 良

自ら学びの場を広げて

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。教育学部所属の私が、これまでやっておいて良かったと思うことと、反対にやっておけば良かったと思うことを書きます。

やっておいて良かったと思うことは、サークル活動です。私はボランティアサークルに所属しており、学校での行事運営をお手伝いしました。教育実習だけでは学びきれない教員の姿や子どもとのかわりを知ることができました。特別支援教育を専攻する者として、ボランティア活動を通じた障害を有する児童生徒とのふれあいや接したコミュニティは掛け替えない財産になりました。講義で満足せず、自ら教育系のボランティアに参加

する意義は大いにあると思います。

卒業を前にして、もっと学内での交友関係を広げることができれば、より成長することができたと少し惜しく思います。振り返ってみると、他学部生との話から見聞が広がることは多々ありました。また、他コースの学部生と話し合うことも自身を大きく成長させてくれる機会であったと感じます。

講義に真剣に取り組むのはもちろん、共に学ぶ学生との交流や経験を得ようと自ら積極的に活動する姿勢を大切にしてもらいたいと思います。ぜひ頑張ってください。



教育学部
養護教諭養成課程3年
黒沼里咲

繋がりを大切に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活にも少しずつ慣れてきた頃でしょうか？

さて、私からは人との繋がりを大切にすることを伝えたいと思います。大学生になると授業だけでなく生活の中で周りの人と関わる機会が多くなります。特に、友達はいざという時に協力できる頼もしい存在です。また、大学は高校と違い、全国から人が集まります。育ってきた環境が違う人との関わりは自分の考えを多様にし、より深い考えを育むことができます。

かくいう私も、養護教諭養成課程では同級生と授業などで意見を出し合い、自分では気づかない

新たな視点を教えてもらっています。先生方には専門的な知識から生活に役立つ知恵まで幅広く教えていただき、時に優しく、時に厳しくご指導いただいています。部活動は剣道部でマネージャーとして働き、傷病人の手当てから環境整備、大会での事務作業などを行っています。選手のサポートを行うにあたり、困った時は同期だけでなく先輩後輩も手伝ってくれるので周りに支えられていることを日々感じながら毎日楽しく過ごしています。3年生の今、私は弘前に来て出会えた皆さんの人たちに感謝しています。新入生の皆さんにも、そう思える出会いがあることを祈っています。



医学部医学科1年

飯田 真司

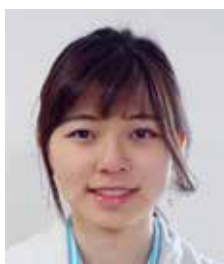
学生生活への抱負

弘前大学医学部に入学してまず初めに感じたことは、部活動の活発さです。様々な活動をしている団体があり、多くの先輩方が熱心に勧誘してくださいましたことは、新入生としてとても嬉しいものでした。入学直後の学友会による新入生歓迎会でも、先生方が口を揃えて部活動にもぜひ積極的に参加してほしいとおっしゃっていました。私はサッカー一部に入部しましたが、先輩方や同期の仲間にも恵まれ、今後の学生生活が充実したものになると予感しています。

初めての授業で、女の子の症状や検査結果をもとに、病気を診断するという課題が出ました。本

やネットを調べたり、友人たちとああこうだと話し合いながら勉強を進めました。最終的に、拙い考察ではありますが、自分たちの答えを出せたときは勉強の面白さを感じました。大学での勉強は高校までとは違い、自ら必要なことを調べ、考えて答えを出すものが多いのだと思います。創造や工夫により、実りある学習を積み重ねていきたいです。

弘前大学で勉強と部活動、さらに遊びにも全力を注ぎ、周囲への感謝を忘れずに充実した学生生活を送って、良い医師となる礎を築いていきたいです。



医学部医学科1年

一岡 香鈴

弘前大学に入学して

弘前大学に入学し、気がつけば一ヶ月が経とうとしています。横浜から一人慣れない雪国に赴き、寂しさを感じる暇もなく、今は学業と部活動に勤しんでいます。

私は体を動かすことが好きで、入学以前から運動部に所属しようと考えていたため、様々な部活の試打会や食事会に参加しました。そして、練習が厳しいことは承知の上で、先輩や同期の雰囲気にも惹かれて医学部硬式庭球部に入部しました。授業やお昼ご飯など、部活の同期と過ごす時間も多く、毎日楽しい大学生活を過ごしています。

私の目指す理想の医師像は、信頼される医師です。それはつまり、患者さんからの信頼だけでな

く、共に働く看護師や薬剤師など他の医療従事者からの信頼を得られる医師です。そのような医師になるには、確かな知識と技能に加え、十分なコミュニケーション能力も必要だと考えています。医師として必要な知識を学び、習得するのに、6年という期間はとても短いように感じます。そんな短い時間の中で、勉強も部活も全力で取り組み、時間を無駄にすることがないように過ごしたいと考えています。また、医学部の友達だけでなく、部活の先輩や他学部の友達との関わりを通してコミュニケーション能力を磨いていきたいです。



医学部医学科1年

村上 蘭

新学期を迎えて

4月5日に入学式を迎え、新たなステージのスタートラインに立った私たち1年生。大学生活への期待と不安を胸に新たな一歩を踏み出しました。

初めの一週間ほどはガイダンス等が続き、それぞれが新しい環境に慣れようと必死でした。4月11日から始まった授業では、慣れない授業形態で、分からないことや不安なことも数多くあります。それらのことは友人や先輩、教授に聞き、確実に解決しながら新たな知識や経験を積み重ねていきたいです。

また、4月の後半になると部活やサークルへ所

属する同級生も増えてきました。私自身も弓道部に所属し、それと同時にACEの英会話にも参加します。今まで続けてきたことを継続する人や新しいことを始める人もいると思いますが、それぞれが勉学以外で様々な経験を積んでいければいいと思います。

医学科は1年次の後期から専門科目が始まり、2年次からはさらに忙しく、体力的にも精神的にもとても厳しいと先輩方から聞いています。誰も留年せず次の学年へ上がれるよう、学年全体で協力していきたいです。



医学部医学科2年

澤谷 俊之介

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活に慣れてきた頃ではないでしょうか。一人暮らしをしたり、授業を自分で選択したりと新しい環境に戸惑ったりすることもあります。一つの経験として前向きに捉えてもらえればと思います。

さて、私が新入生に伝えたいことは習慣をつけることです。大学生活では、今までよりも自由時間が増えると思います。自由時間があることで部活やバイトなどいろいろなことに力を入れることができますが、あまり怠惰な日々を送らず、勉強

や生活リズムを習慣化して崩さないことが大切だと思います。特に医学科では、2年生になると途端に忙しくなりますので、日頃から慣らしておくことをおすすめします。そうは言っても勉強のモチベーションが上がらないときもあるので、そういったときは、将来の自分や今やっていることがこれからどのように役立つのか具体的に考えてみるのもいいかもしれません。

最後に、大学生活で初めて経験することが、たくさんあると思いますが、その一つ一つを大切にしたいです。



医学部医学科2年

芦野 倭子

新入生に向けてのメッセージ

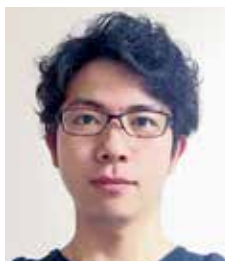
新入生の皆さん、弘前大学へのご入学、おめでとうございます。長く、厳しかった受験生活からも解放され、楽しい新生活を送っていることと思います。私からは新入生の皆さんに、大学生活を楽しむためのアドバイスをしたいと思います。

一つ、「時間はたくさんあるけど有限だよ、本当にやりたいことをやろう！」高校生までとは違い、自由な時間を、自分で決められるようになります。学年が上がるにつれて専門科目等のやらなければならないことも増え、だんだん忙しくなってくるので、趣味でも部活でもアルバイトでも、やりたいことは思う存分やりましょう！時には（常識の範囲内で）さぼってみるのも、私はい

んじゃないかと思えます！

一つ、「横と縦のつながりを大切に！困ったときに助けてくれるのは友達と先輩」授業変更やレポートの締切、テストの範囲など、一人で抱え込むのは大変です。友達と情報を共有・交換し、「学びあい」をすることが大切です。テスト前には友達と勉強を教えあうのも楽しいと思います。

最初の一年は、ぼーっとしているとあっという間に過ぎてしまいます。興味のあることや、楽しそうなイベントには積極的に参加してください。皆さんがかけがえのない、素晴らしい大学生活を送っていただけることを願っています。



医学部医学科2年

角 昂大

ようこそ弘前大学へ

新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。4月から新しく始まった大学生活にはもう慣れた頃でしょうか。ついこの前まで一年生だった自分たちに後輩ができたかと思うと、時間が流れるのは早いなあとしみじみ思います。弘前大学で一年間を過ごしてみて私がみなさんに伝えたいことは、大学生活において行動力のある人間が成長の場や機会を得ることができるということです。大学に入学し、何か新しいことを始めようと思ったり、ある目標を達成したいと思って

いたりする方が多くいると思います。そんな時には自ら行動を起こすことが重要だと思います。「いろいろやりたいことはあるけれど、どうしようかな」と思いあぐねっているとあっという間に時間は過ぎてゆきます。事前にあれこれ考えることは時には必要です。ですが行動力をもって生活することも重要になってくると思います。2年生になると実習やテストでいろいろと忙しくなるので、今しかできないことをして悔いのない一年を過ごしてください。



医学部保健学科
看護学専攻1年

工藤彩楓

これからの4年間

入学してから約1ヶ月が経ち、入学前は勉強について行けるか、友達ができるかなど不安が大きかったのですが、部活の先輩方や周りの人たちに助けられながら徐々に大学生活に慣れてきました。

私は自宅生で1時間ほどかけて通学しています。家に帰れば家族がいて、さらには食事も出ます。もし私がこれからなんとなくという気持ちで過ごせば、今までとあまり変わりがなく、親から自立できていない生活になってしまうと思います。なので大学生になったのを機に自主的に家事をして、自分が成長できる良い機会だと思って過ごしたいです。

せっかくここ弘前大学で学ぶことができるので、専門の知識はもちろん、教養教育科目で得られるような知識もより多く身につけて、多方面から物事を捉え、患者の心のケアも行い、その人らしい生活を送れるようにサポートできる看護師になりたいと考えています。

さらに私は短期留学や旅行に興味があるのでアルバイトでそのためのお金を貯めながら、社会経験を積みたいです。

これからの4年間は初めての経験も多く、何度も壁にぶつかるかもしれませんが、ですが、何にでも挑戦してみるという精神で取り組み、有意義なものにしていきたいと思います。



医学部保健学科
放射線技術科学専攻1年

大野花保

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して、約1カ月が経ちました。入学前はこれから始まる大学生活に期待と不安が入り混じっていました。いざ大学生活が始まり、様々な講義を受けたり友人達とサークル見学に行ったりすると今までとのスケールの違いや新しい出来事に圧倒され、驚くことばかりです。

私が弘前大学に入学した理由は、将来、診療放射線技師になり、医療現場において人を助ける仕事がしたいと思っていたからです。そして、医学部保健学科には5つの専攻があります。これは医療現場にとって必須であるチーム医療を学ぶこと

が出来るということであり、また、将来は地元である青森県で働きたいと考えていた私にとって青森に密着した医療を学べることが弘前大学の大きな魅力だと感じています。

これから弘前大学で学ぶにあたって、同期の皆や新しくできた友人達との出会いに感謝し、優しく、様々なアドバイスを下さる先輩方との縦の繋がりも大切にしていきたいと思いました。これからの4年間は国家資格取得という目標に向かって努力し、更には個人としても成長した人間になれるように頑張りたいと思います。



医学部保健学科
理学療法科学専攻1年

請川 諒

弘前大学の学生となって

入学式を迎えてから約一ヶ月が経ちました。入学前は勉強について行けるか、友達ができるかなど多くの不安を抱えていましたが少しずつですが同じ専攻の人とも打ち解け、大学の講義や一人暮らしの生活にも慣れてきました。炊事、洗濯、掃除など今まで親に任せていたものを全て自分でやるということはとても大変ですが少しずつ出来るようになってきました。

今は高校1年生の時からずっと志望していた弘前大学で勉強出来ることをとても嬉しく思っています。今年の春惜しくも弘前大学に入学できな

かった人たちの分も精一杯勉強したいと思います。また大学の勉強は専門的なものが多く、座学だけでなくグループワークや実習形式の授業もあり、高校とは違う授業形式での学習は非常に楽しいです。

大学の4年間はおそらくあっという間に過ぎていくのだらうと思います。なので、学校生活、一人暮らし、部活やサークル、アルバイトなど様々な体験を通して一人前の社会人、一人前の立派な理学療法士になれるよう充実した毎日を送れるよう頑張りたいです。



医学部保健学科
検査技術科学専攻3年
黒田京花

一生ものの仲間を

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活が始まり、新しい環境に戸惑いながらも日々勉強に励んでいることと思います。保健学科は1年前期から専門科目があり、医療従事者を目指す一員になれたと実感することです。また、専門的な授業が難しくこれから先ついていけるのか、不安に思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私が新入生の皆さんにお伝えしたいことは、一生ものの仲間を作ろう！ということです。これからの大学生活において、レポートや課題がうまく進まなかったり、苦手な科目で

苦戦したり、就活や卒業研究、国家試験などたくさん苦しいことに直面すると思います。幸い弘前大学は保健学科に5つの専攻があり、医学科も設置されています。同じ医療者を目指す仲間がたくさんいるので、一緒に困難と闘える戦友を見つけてください。もちろん私たち上級生も同じ仲間です。皆さんが進路などで悩んだり勉強でつまづいたりした時はいつでも力になりますのでたくさん頼ってください。在学中も卒業後もともに勉強し刺激し合える仲間を見つけ、私たちと一緒に素敵な医療従事者を目指しましょう。



医学部保健学科
放射線技術科学専攻3年
高橋七瀬

大学生活を楽しむために

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学してから一ヶ月がたち、新しい友達に出会い、新しい生活を始め、大学生活にも徐々に慣れてきているところだと思います。私が皆さんに伝えたいことは、自分を知ることと感謝を忘れないことです。

大学は今までよりもさらに自由な時間が増え、漠然とただ過ごしてしまうとあっという間に1年が終わってしまいます。せつかくの大学生活、思い切り楽しんでもらいたい。そのためには、まず自分を知ることが大事です。自分のやるべきことやそれらをいつ終わらせるべきかなどを把握し、見通しを立てることで、自由な時間をつくり出す

ことができると思います。そして、それらをやるときはやる、遊ぶときはとことん遊んで充実した大学生活を送ってほしいです。

また、大学から一人暮らしを始める人がほとんどだと思います。一人暮らしをしてみて、親のありがたさが身にしみてわかるとと思います。大学に行くことができるのも、一人暮らしできるのも、みんな家族のおかげです。家族に対する感謝の気持ちを忘れずに過ごしてほしいです。さらに、これからたくさんの人と出会い、たくさんの経験ができると思います。その出会いに感謝し、大切にしていってほしいです。



医学部保健学科
作業療法科学専攻3年
高木沙羅

新入生に向けてのメッセージ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れたでしょうか？慣れない環境下に加え、これまでとは大きく変わる勉強内容や時間の使い方に、ワクワクする人や中には戸惑う人もいるでしょう。

大学生活を送る中で、みなさんには「チャレンジすること」を大事にしてほしいです。大学生活は長いようで短いです。ただなんとなく過ごしていると、あっという間に大学生活が終わってしまいます。何でもいいと思います。部活・サークル、アルバイト、ボランティア…自分の好きなことややりたいこと、興味のあることなど沢山のことにチャレンジして下さい。きっと何かしらのか

たちでみなさんの成長につながることでしょ。また、チャレンジした分、多くの人との出会いがあります。大学には様々な価値観を持った人たちがいます。その人たちから多くの刺激を受け、自分の視野を広げることができると思います。特に1年生は、大学生活の中で最も時間があるので、今のうちに沢山のことにチャレンジしてみてください！

勉強との両立で忙しいとは思いますが、勉強だけでは得られないことはきっと沢山あります。みなさんが、充実した大学生活を送れることを祈っております。



理工学部
数物科学科1年

近藤天良

数学求めて三千里

はじめに、弘前大学理工学部数物科学科に入学できたことを心から嬉しく思っています。私が弘前大学でやりたいことはただ一つで、それは数学であります。ここでは私が数学に興味をもった出来事と共に、大学でやりたいことをお話していきたいと思います。私が最初に数学に興味をもったのは中学生の時でした。きっかけは忘れてしまいましたが、「ユークリッド原論」という本を買って、読んでいました。その本の内容は学校で行われる数学のやり方とは大分異なっていて、公理からはじまり、言葉を定義し、厳密に数学理論を展開するというものでした。当時の私はこのスタイ

ルにえらく感動したことを今でも覚えています。さらに、その原論の歴史について調べてみると、なんとこの本はおよそ2300年前にはあったとされていて、驚きました。そこから、私は数学に目覚めたのだと思います。その後は、そう順調にはいかず、今に至るまで一回数学から離れるなど紆余曲折がありましたが、現在は数学をやるという意欲にあふれています。大学では数学と一緒に学ぶ仲間もできました。これからも、数学に感動した初心を忘れずに、精進していきたいと思



理工学部
機械科学科1年

井上悠哉

挑戦の4年間へ

「挑戦を恐れずに」この言葉を大切に、大学生活を送っていききたいと思います。

私は将来の夢を叶える為、弘前大学を受験しました。それを実現できるように大学では、高校の時とは出来なかったたくさんの事に挑戦していきたいです。弘前大学に入学して早一ヶ月が過ぎようとしています。大学での生活では、想像以上に自由な時間が増えました。その時間を無駄にせず有効活用していける人が、将来の夢を叶える事が出来る人だと思います。その為、私は無駄な時間を過ごさず、今でしか体験できないような事へ挑戦をしていきたいです。

さて、弘前大学での生活は高校時代の時とは違って、授業の時間帯が曜日ごとに違ってきます。また、授業の合間にかかなりの時間があるな

ど、これまでの生活とは違い今でも戸惑ったりする時もあります。しかし、これも良い経験だと思います。新たな経験を楽しみたいです。また、大学の先輩達や教授の方々から、たくさんの事を学び自分の将来の糧にしていきたいです。

大学では、これまで出来なかったことへ挑戦する機会がたくさんあります。勉強にサークルや学祭、研究活動など「挑戦を恐れずに」たくさんの事へ挑戦し続け、自分自身の力へ変えていきたいです。

大学での4年間はたくさんあるように思えますが、何もせずに過ごしてしまえば、あっという間に時間だけが無駄に過ぎてしまいます。その為にも、一日を大切に過ごし、楽しく充実した大学生活を送ろうと思います。



理工学部
自然エネルギー学科1年

坂野志帆

はじまり

弘前大学に入学して、約1ヶ月が経ちました。入学前は大学の勉強についていけるか、友達ができるかなど、多くの不安を抱えていましたが、学科内外に個性豊かな友達がたくさんでき、大学の講義にも徐々に慣れていきました。毎日が新鮮な出来事ばかりで、とても充実した日々を送っています。

大学は、先生に色々指示されていた高校とは違い、とても自由です。しかし逆に言えば全て自分で考え行動しなければいけません。だから自分としっかり向き合い、将来のこと、自分が何をしたいのかを考え行動していきたいと思っています。

大学生活を送るようになってから、これまでにたくさんの人たちに支えられていたことを実感しました。これまで関わってくれた人たちに感謝しながら、またこれから関わっていく人たちに感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。

大学の4年間はあっという間に過ぎていってしまうので、時間を無駄にせず、先輩や教授の方々から様々な知識を取り入れたり、新しいことにも挑戦していきたいです。弘前大学という場所で、たくさんのことを学び、仲間と切磋琢磨しながら中身の濃い大学生活を送りたいと思います。



理工学部
物質創成化学科2年
山本 颯太

新入生に向けてのメッセージ

新入生のみなさんは入学してひと月ほどたち大学生活への慣れを感じてきている頃でしょうか。私もやっと自分を自然に二年生だと思えるようになってきました。そんな私が、新入生の皆さんに伝えたいことがあるとすれば、とにかくこの一年でいろんなところへ行っているいろんな人と話してみたいということです。僕はサークル活動で青森県内の高校を回る活動をしています。これには県内のいろいろな大学の人が参加していて、そんな中には例えば自転車で東北1周した人とかヒッ

チハイクで沖縄まで行った人など、自分の想像が及びもしないことをしている人たちがたくさんいました。みなさんもきっと高校までとは違っていろいろな出身の人と会ったりして、すでに新鮮だと思っている人も多いと思いますが、その気持ちのままでもっともっという人に関わってほしいと思います。自分の世界って思ったより全然小さかったんだ！という驚きをたくさんの人にしてほしいなと思います。ぜひ新入生の皆さん有意義な大学生活を送ってください！



理工学部
地球環境防災学科3年
美濃嶋 巧

新入生に向けて

新入生の皆さん、入学してからひと月が過ぎ、そろそろ大学生活に慣れ始めた頃でしょうか。この春色々な思いを持って入学してきたと思います。一人暮らしを始めた人もいるでしょう。弘前大学に入学し大学生として皆同じラインからスタートを切ったのですから、新しい気持ちで大学生活を過ごしてください。大学生活には長い自由な時間があります。勉強を怠けると痛い目にありますが、部活やバイトに頑張るもよし、逆に遊びつくすのも良いでしょう。何か一つでも頑張れるものを作ってください。そして、せっかく青森の大学に通っているのだから、青森でしかできないこ

とをした方がよいと思います。核燃料問題について考える授業もありますし、白神山地、リンゴについて考える授業もあります。弘前は勉強、研究をするにはとても適した場所です。しかし、娯楽関連の施設は充実しているとはいえずどちらかといえば閉鎖的な街ですから、時々旅行に行くことをお勧めします。最後に、私の所属する理工学部地球環境防災学科では人間に必要な水が循環している大気圏-水圏-地圏の全てを学ぶことができ、建設から宇宙まで広く学ぶことができます。この弘前大学で自分のしたいことを大事にして頑張ってください。



理工学部
電子情報工学科3年
工藤 遼太郎

人生の分岐点

まずは新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生になり約2か月が経ち前期もちょうど折り返し地点になりました。友達はいましたか？大学の授業についていけますか？大学は高校の時とは違い、先生方は私たちの面倒を見てくれないので慣れないことも多いと思います。最初は大変かもしれませんが社会に出る前の準備だと思い、自分なりに工夫してみましょう。

新入生に向けてのメッセージということで今回私からみなさんに伝えることは一つ、後悔のない大学生活を送ってください。みなさんが社会人になり大学生活を振り返ったとき、おそらく大学生

活が充実していた！と自信を持って言えるか、それとも大学でもっと〇〇をしておけばよかったなあ…と後悔する、この二択だと思います。社会に出てから後悔しないためにも、まずは学生のうちにやっておきたいことなどの目標を立てましょう。例えば、サークル活動に力を入れ一生付き合っていけるような友達を作る、留学をして語学力を高める、専門科目でいい成績をとるなど何でも大丈夫です。目標を立てたら後はそれを達成できるように大学生活4年間を全力で走り切ってください。そして大学生活を振り返った時後悔はない！と自信をもって言いましょ。



農学生命科学部
食料資源学科1年

福原夏美

充実した学生生活を送るために

弘前大学の一員となり早くも一か月が経ちました。私は高校生の時、大学生の自分のしたいことが自由に行えるという生活に強い憧れを抱いていました。しかし、いざ大学生になってみると自由な分、自分でしっかりと考えて行動しなければいけないことが増えるため、意外にも大変であると感じました。それを特に感じたのが履修決めです。高校の時とは異なり、学習する科目をほとんど自分で決めなければならないため、何を選んでよいかわからず初めはとても戸惑いました。また、自分から進んで行動しなければ何も始まらな

いため、大学4年間でしかできないことなど様々なものに挑戦していきたいと思っています。

入学から一か月経った今では大学の自由な生活にも少しずつ慣れ、小学生の時から憧れであった吹奏楽団に入団し、私が興味を持っている食品の機能などについても学ぶことができ、毎日楽しく充実した学生生活を送ることができています。これから更に実りある学生生活を送るために、アルバイトなどの社会勉強はもちろん、旅行などの遊びにも全力で取り組み、最高の4年間を過ごせたらと思います。



農学生命科学部
国際園芸農学科1年

福舘日奈子

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して1~2ヶ月が経ちました。高校生の頃想像していた大学生活よりも大変なことや戸惑うこともあります。充実した毎日を送っています。私は地元が弘前なので県外から来た同級生に弘前を紹介したり、色々な方言を聞いたりするのがとても楽しいです。

私は高校から農業を学び、青森県のリンゴに誇りをもちました。でも現在はリンゴ農家が減少していたり、若者のリンゴ離れが進んでいると知り、地元の問題を真剣に考えられるのはやはり地元の大学しかないと思いこの弘前大学を選びました。

更に2度行ったことのある台湾では、青森のリン

ゴはすごく高価なものでした。今海外で青森のリンゴがどのような存在なのか。また、これからどのような存在になっていくのか。をもっと深く知っていきたいと思い農学生命科学部国際園芸農学科を選びました。

実際の大学の講義では高校の授業とのスピード・レベルの差に諦めたくなることもあります。でも先生方や先輩方の力も借りながら、この先に待っているテストや海外研修などのために精一杯勉学に励みたいと思います。

今自分が持っている初心を忘れずに、大切な友達と充実した4年間を過ごしていきたいです。頑張ります！



農学生命科学部
地域環境工学科1年

安田脩祐

大学に入って思ったこと

弘前大学に入学して1ヶ月が経ちました。

私は自宅生ですが、周りが一人暮らしばかりなので、悠々自適でいいな—と思っていたのですが、一人暮らしの人達は自炊や洗濯など家事が大変そうにしているの、家事をしてくれている家族のありがたみを感じるようになりました。自分は料理や洗濯などの手伝いをやってきていなかったの、他の人を見習って少しずつでも練習していこうと思います。また、大学に入学して感じたことは授業の時間が変則的であるということです。それぞれ一人一人が違う時間割なので友達との合流のために連絡をとる機会が増えました。その際にきちんと相手に伝わるように連絡を取らな

いと、誤解して認識されてしまうということが増えました。だから、自分は今よりも相手の立場に立って物事を考えられるようになりたいと思います。相手の立場に自分になることを上手く活用できれば、今後レポートやバイトなどでもそのことを活かし、誤解を生むことなくどちらの方にしても気持ち良くしていただきたいと思います。

大学では、自由な時間が増えたので今まで本は小説を多く読んでいたのですが、実用書や海外の著者の本などいろいろな本を読んでいきたいです。

大学では自分がやりたいことも存分にしながらも勉強も怠らず頑張りたいです。



農学生命科学部
分子生命科学科4年
渡部 美典

人生の分岐点

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学へようこそ。今までとは違った学校生活にまだまだ落ち着かない時期かもしれませんね。

もう既に体感している人も多いかと思いますが、大学生活はこれまでの学校生活と比べて自由度が高いです。『人生の夏休み』なんて言われるように、あらゆる面で自分が好きに使える時間が大半を占めるようになります。講義以外にバイトやサークル、長期休業中には旅行やインターン、あるいは何もしないで怠惰に生活するのも自由です。ですが、本分は一応学業なので単位を落とさ

ない程度に自分にとって意味のあると思う時間の使い方をしていてください。何が有意義で、有意義でない時間をどのように解釈・行動できるのかは自分自身に掛かっています。どうか皆さんが有意義な時間を過ごせることを願っています。

最後に個人的な意見ですが、弘前大学には沢山の個性的で愉快な人がいます。それは学生に限らず先生もです。自分と興味の似通った人が集まっているので面白い話ができる人が一人はいると思います。自分だけの時間は勿論ですが、交流する時間も大事に4年間楽しく過ごしてください。



農学生命科学部
食料資源学科3年
木村 誠也

挑戦そして追求、追究

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは「大学は自由な時間が多いから色々なことに挑戦するべきだ」と言われたことはありませんか。たしかに大学生活では勉強以外にもサークル、部活動、アルバイトなどの課外活動に挑戦する機会に恵まれています。しかし多くのことに挑戦しただけで慢心するのではなく、挑戦したことから取捨選択をし、自分に合うものを追求していくことを忘れてはいけないと思います。

皆さんの中には目標や希望を持って入学した方、本来の志望校には届かず、敢え無く弘前大学

に入学した方など色々いると思います。しかしどのような状況であっても、目標を達成することは可能であると私は信じています。置かれた場所で為すべきことを実践、追究していくことで、自身の念願に近づいていくのではないのでしょうか。私も今春、かねてから希望していた食品製造学分野の研究室に配属されました。卒業後は大学院で高度な研究ができるよう、これから日々努力をしていくつもりです。新入生の皆さんもこの4年間で心から没頭できることを見つけ、大学生活をより楽しく、有意義なものにできるよう頑張ってください。



農学生命科学部
地域環境工学科3年
飯田 健吾

充実した大学生活

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。期待と不安を持って入学されたかと思いますが、そろそろ大学生としての新生活にも慣れてきた頃でしょうか。授業やサークルへ参加してみて、忙しいと感じている人もいます。大学の四年間はあっという間に過ぎ去ってしまいます。

大学は高校までと違い自由に使える時間がありますが、学生ですので勉学に励むことはとても大切なことです。私は大学で学んでいくうちに、将

来やりたいことを幸運にも見つけることができました。また、勉強だけでなく部活やサークル、アルバイト、旅行などを通して様々な経験をし、色々な人と交流して欲しいです。社会人として働くようになってからは、なかなか時間が取れないはず。貴重な経験をすることは、今後の自分の人生にきっと生きてくるはずですので、やりたいことに対して全力で取り組んでみて下さい。充実した大学生活になることを願っています。



図1 木材加工研究室メンバーとりんご園にて

1. はじめに

木材加工研究室は私が着任した2018年4月にスタートし、今年度で2年目を迎える新しい研究室です。前職では「県内産業振興への貢献」をミッションとして掲げている地方独立行政法人青森県産業技術センターに所属し、主にホタテ貝殻、FRP (Fiber Reinforced Plastic) 等廃棄物のリサイクル技術や地域資源を原料とした材

料の開発に携わってきました。最近では、前職より行ってきたりんご剪定枝を原料とした活性炭の研究およびその応用に関して、地域の企業の方々と一緒に取り組んでいます。

当研究室の名前にもある木材加工とは、「木材を変形・変質・混成等の技術的手段によって、その効用を発生させ、または増加させて、その利用価値を増殖する生産行為（梶田茂編：木材工学、P799）」と定義されています。現在、教員1名と学生3名の体制で、木材の密度を変える、あるいは炭素化させる等の技術的手段によって付加価値を高めることを目的として、各自が受け持つ研究テーマを進めています。今回、ここで研究室紹介の機会を頂きましたので、当研究室が進めている研究内容について、ご紹介したいと思います。

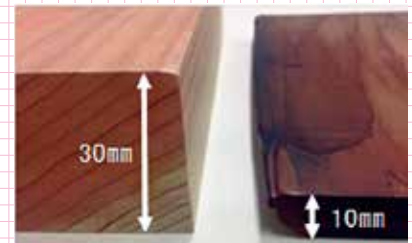


図2 スギの圧密化前(左)、圧密化後(右)

て見えます。また木材の加工法の一つとして、圧密加工と呼ばれる方法があります。これは、スギのような軟らかい木材を圧縮することで、密度を向上させる加工法（江越 航：圧縮木材の変形回復試験、P203）のことです。これまで圧密化の前後で早材と晩材を分けて物性の違いを明らかにすることは難しかったのですが、近年測定機の発展とともにそれが可能となってきました。

そこで本研究では、スギの圧密化前後における早材および晩材の硬さや結晶化度等の物性を調べ、比較検討しました。その結果、硬さは圧密化によって早材の方が晩材よりも高くなることが分かりました。また、結晶化度も早材の方が晩材よりも高くなる割合が大きく、これらは圧密化前の密度やセル

2. 研究内容

2.1 圧密化木材の物性に関する研究

木材は春から夏にかけて成長する部分（早材）と夏から夏の終わりに成長する部分（晩材）があり、これが板では木目に、そして丸太では年輪となっ

教育学部

木材加工研究室

講師 廣瀬 孝

Laboratory introduction

研究室紹介

ロス量等が関係していると考えられます。

2.2 ヒバ材を原料としたスマートフォン用スピーカーに関する研究

cocofa（藤崎町）との共同研究にて、青森県の地域資源であるヒバを原料とした製品開発としてスマートフォン用無電源スピーカーをターゲットとし、繊維方向の異なる無垢材および集成材から試作したスピーカーがどのような音響特性を示すか、比較検討しました。

その結果、音の出る方向と繊維方向は同じ方が、また集成材よりも無垢材の方が良好な音響特性を示すことが分かりました。



図3 試作したスマートフォン用無電源スピーカー

2.3 収集時期の異なるりんご剪定枝を原料とした活性炭に関する研究

りんご剪定枝を原料とした活性炭を実用的に製造する場合、収穫時期等の違いによってその物性が異なることは好ましくないと考えられます。しかし、これまでのりんご剪定枝を原料とした活性炭の研究において、異なる時期に収集されたりんご剪定枝を活性炭化したものの物性評価は検討されていませんでした。

そこで本研究では、収集時期の異なるりんご剪定枝を原料として作製した活性炭の細孔物性等を調べ、比較検討しました。その結果、収集時期が異なっても、灰分や活性炭直径等の基本物性に大きな違いは生じないこと、また、比表面積やミクロ孔容積等の細孔物性に大きな違いは生じないことが分かりました。また、賦活時間と比表面積やミクロ孔容積の関係において、収集時期が異なっても両活性炭の決定係数 R^2 は高く、傾きもほぼ同等の傾向を示すことが分かりました。

2.4 酸洗浄したりんご剪定枝を原料とした活性炭の物性

りんご剪定枝を原料とし、酸洗浄し

た活性炭について、スギを原料として同様に作製した活性炭および酸洗浄した市販活性炭と比較検討しました。その結果、りんご剪定枝を原料とした活性炭の比表面積および細孔容積は他炭よりも大きく、特に孔径の大きいマイクロ孔や直径4 nm よりも大きいメソ孔が生成されていることが分かりました。また、水蒸気吸着量も他炭より多いことが分かりましたが、いずれの活性炭中にも吸湿に関与する官能基が認められないことから、その大きなメソ孔容積が起因していると推定されました。

2.5 りんご剪定枝を原料としたメチレンブルー吸着に関する研究

水質浄化等の液相で用いる活性炭はメソ孔域の細孔を多く有しているのが特徴ですが、この活性炭は塩化亜鉛やリン酸等を用いた薬品賦活にて作製されるのが一般的です。しかし、この方法は、1) 生産設備のほとんどが耐食性材料や耐食性処理を必要とするため、設備投資が高く、製造原価に影響する、2) 製造プロセスが煩雑で、生産規模の拡大や生産の自動化が難しい等の問題点を有していました。このような社会的背景や技術的問題を有する中、りんご剪定枝を原料としてメソ孔域の細孔を多く有している活性炭を、薬品賦活と並んでもう一つの活性炭製造方法であるガス賦活にて作製することができれば、液相用等の活性炭に関する新たな製造方法と資源の活用法が見出されると同時に、産業振興に大きく貢献することが可能と考えられます。

そこで本研究では、りんご剪定枝活性炭の用途として水質浄化をターゲットとし、りんご剪定枝活性炭および市販品の基本物性や「活性炭試験規格」中の項目の一つであるメチレンブルーの吸着性能を算出、比較検討しました。その結果、りんご剪定枝活性炭は賦活時間が長くなるに従って比表面積、外部表面積、ミクロ孔容積、メソ孔容積の値が大きくなることが分かりました。また、外部表面積およびメソ孔容積の大きい活性炭はメチレンブルー吸着性能が高くなる傾向を示しました。

2.6 りんご剪定枝由来活性炭を用いた脱臭用フィルタの物性

りんご剪定枝を原料として作製した

活性炭に薬品を担持し、タバコ臭をターゲットとして作製したフィルタの除去物性について調べ、ヤシガラ製の市販活性炭を用いたものと比較検討しました。その結果、担持したりんご剪定枝活性炭は市販の活性炭と比較して外部表面積およびメソ孔容積が大きいことが分かりました。また薬品の担持によってある特定のサイズ孔が極端に小さくなることは確認されませんでした。更にもりんご剪定枝活性炭の方が使用初期から一定期間において除去速度が高く、これは外部表面積やメソ孔容積の大きさが関与していると考えられました。

2.7 りんご剪定枝活性炭を用いた電気二重層コンデンサに関する研究

エルナー株式会社（黒石市）との共同研究により、りんご剪定枝を原料としたペレットから作製した収率の異なる活性炭より電気二重層コンデンサ用活性炭を作製、市販活性炭とともに細孔物性等を調べ、両者を比較検討しました。その結果、ミクロ孔分布、メソ孔分布ともに、収率の違いによって、その分布のピークは異なること、ある一定の範囲のミクロ孔を多く有する活性炭が高いコンデンサ性能を有することが分かりました。

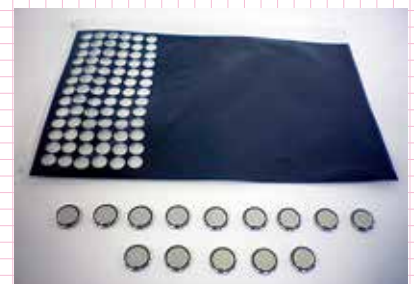


図4 試作した電極とコイン型コンデンサ

3. むすびに

以上、木材の密度を変える、あるいは炭素化させる等の技術的手段によって付加価値を高めることを目的として、各自が受け持つ研究内容を紹介させて頂きました。今後も様々な技術を活用し、木材等の付加価値を高めるための研究を進めていきたいと思えます。



世界とつながる

STUDYING ABROAD REPORT

海外だより

私の 留学体験記

人文社会科学部
文化創生課程多文化共生コース4年
鈴木大賀



トリーア大学入口

はじめに

筆者こと私鈴木大賀は2018年9月から2019年7月までドイツ、トリーア大学に留学しました。日本の大学生で海外へ飛び立つ人が少なくなっているなか、私は海外へ飛び立ちました。なぜドイツに留学しようと決意したのかというと、昔からヨーロッパに興味があったのと就職したら多分海外にはいけないだろう、これが最後のチャンスだと思ったからです。日本を出る前にいろんな人から「日本とドイツは似ているから暮らしやすいと思うよ」と言われましたが、実際に暮らしてみると全く違い狼狽してしまいました。その辺のことも赤裸々に語ろうと思います。

それでは、私の留学体験記、始まります。どうか過度な期待はせず肩の力を抜いてお読みください。



ポルタ・ニグラ

留学前

留学を志すもの、または実際に留学するものは必ずと言ってよいほどコンタクトを取る組織がある、それが国際連携本部である。はじめてコンタクトを取ったのは2017年の後半だと思います。ちょうどトラベルスタディーズAでオークランドに行った後、海外でも案外暮らせるとってお話を聞いたのでしょうか。家族も留学には賛成だったので、というより大学に合格した時点で留学の話は出たので話はとんとん拍子で進みました。協定校へ留学する場合は基本的に国際連携本部の方からもらう指示に従えば大丈夫です。ただ、注意すべきことが2、3あります。まず、パスポート用の顔写真を何枚か持っていくと思いますが、白バックが好ましいです。というのも青バックだと在留届の写真に使えません。でも大丈夫。もし撮り直すことになってもし証明写真機があるので、到着したときに確認しておきましょう。2つ目は残高証明書です。なじみが薄いだけに忘れやすいです。さらに、ただお金があるだけではだめで、支払いを証明する誓約書（日本語不可、手書きまたはWord文書）が必要です。





トリーアの美しい風景



Sd.Kfz.182 Panzerkampfwagen VI Tiger Ausführung B "Tiger II" in U.K.



Döner Kebab



一眼レフで自撮りをしてみた筆者

ライフスタイル編

住んでみて一番驚いたことは、日曜日と祝日はレストラン以外一斉に閉めてしまうことです。いつでも店が開いている日本の生活に慣れてしまっているのが不便に感じました。さらにコンビニもジュースの自販機も全くと言っていいほどありませんでした。唯一ガソリンスタンドには必ずコンビニみたいなものが併設されているので、非常時にはガソリンスタンドに行きましょう。

ドイツは飯がまずいとよく言われていますが、これは半分間違いです。正確に言うと肉料理はおいしいです。では私がお勧めする料理は何か？それは、デデン！ケバブです！！ケバブは基本どこの店でもおいしく、かつ手軽に購入でき、そして選り取り見取りです。日本にコンビニがいっぱいあるみたいにトリーアにはケバブ屋がいっぱいあります。逆に学生食堂で変なものを頼むとろくな目にあいません。Pomms（ポテト）、Wurst（ソーセージ）、Hacksteak（ハンバーグ）が無難な選択でしょう。

トリーア/トリーア大学について

トリーアはラインラント・プファルツ州にある都市である。飛行機で行く場合はフランクフルト空港からルクセンブルク空港から列車に乗ることになります。私は後者で現地入りしましたが、空港からバスと電車で約1時間ほどです。トリーアにはポルタ・ニグラなる古代ローマ時代の門があります。その近くには教会や大聖堂があり、きれいな街並みが広がっています。周辺の丘にはブドウ畑が広がり、その上にトリーア大学があります。移動はバスがメインになりますが、だいたいトリーアのバスはかなり乗り心地が悪いので注意されたし。唯一の救いは学生証で料金がタダになることでしょうか。

留学直後にはまずテストを受け最初のドイツ語クラスに参加しました。約2、3週間の間でドイツ語を確認しつつ現地のサポーターと一緒に必要な書類を書きました。保険加入や口座の開設もこの時期に行います。指示通りにしていたら万事OKです。弘前大学が留学生に対してどのような企画を行っているのかわかりませんがトリーア大学は留学生向けの遠足を企画してくれました。その後もう一度テストを受けいよいよ本当のドイツ語講義の始まりです。

余裕があったら現地の日本語学科の学生に会ってみましょう。意外な人材に出会えるかもしれません。私が出会った女性は津軽弁がペラペラでした（よく東京の人と間違えられる私とは正反対です）。

旅行編

突然ですが私は“水曜どうでしょう”という番組が大好きで、こんな旅をしたいなと思っていました。長期休暇には皆さん旅行に出るということで私もそんな旅行を企画しました。「レンタカーでいくイギリス旅行」。残念ながら他の人もほぼ同時期に旅行したため1人で行く羽目に。それでも良い思い出になりました。皆さんもせっかく海外へ留学するのなら部屋に引きこもってないでどこかに旅行することをお勧めします。

おわりに

留学は確かにお金がかかりますし不便なことも不安なことも多々あります。実際何度も帰りたいとか半年でよかったと嘆いたこともあります。しかし、このレポートを書きながら当時のことを思い出すと、本当に留学してよかったと感じました。100万円かかるといわれていますが、この経験は間違いなく100万円以上、いや値段なんかつけられません。皆さんも、短期でいいので留学してみたいかがでしょうか。きっと素晴らしい経験が待っていることでしょう。



地域創生本部

佐藤 公嗣

卒業後は全く大学と関わりのない生活を送ってきました。その後、ひよんなことから紹介で弘前大学八戸サテライトのお手伝いをさせて戴いておりました。昨年10月に新設された地域創生本部地域創生推進室の教員に任用されたところです。大学の内側と外側の接点となりながら地域貢献に繋がるような役割を果たしたいと思っております。よろしく願いいたします。雪の少ない八戸から移住してきましたので、まずは一冬越せるか？です！



人文社会科学部

思想文芸講座

畑中 杏美

4月より人文社会科学部に着任いたしました。畑中杏美（はたなか・あずみ）と申します。イギリス小説、とくに20世紀に活躍した作家を中心に研究しています。以前は、愛媛県、そして、山梨県の大学で勤務していました。東北で暮らすのは初めてで、慣れないことも多いのですが、ひとつひとつが勉強になっています。精一杯、頑張ろうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



教育学部

家政教育講座

加賀 恵子

家政教育講座の加賀恵子（かがけいこ）です。静岡県出身です。専門は家庭科教育、社会資源との協働による市民性の育成や地域教材開発などを研究テーマとしています。中学校教員として勤めたのち、大阪教育大学にお世話になっておりました。長い歴史の中で育まれてきた豊かな文化に彩られている弘前で生活を愉しみつ、教育、研究に尽力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



教育学部

国語教育講座

田中 拓郎

4月に国語教育講座に着任した田中拓郎（たなか たくお）です。青森県三沢市生まれ、本学教育学部を卒業し、青森県で小学校教員をしておりました。その後、（小学校教員のまま）本学大学院を修了し、本学附属教育実践総合センターで研究員として学ばせていただいております。全てにわたって、本学に大変お世話になりました。今後は研究と教育を推し進め、本学に恩返しができたらと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



教育学部

数学教育講座

吉川 和宏

平成31年3月に着任しました吉川和宏（よしかわかずひろ）と申します。専門は確率論で、時間とともにランダムに変化する現象を定式化した確率過程について研究しております。また金融商品の価格決定を行う数理ファイナンスや統計学に基づいた機械学習などにも興味があります。そのような数学を応用したモデルを研究して講義に生かすことで研究・教育に貢献できるよう努めてまいります。よろしくお願い致します。



new

新任教

12名の教員が新





教育学研究科

教職大学院

中谷保美

昨年度末、青森市立堤小学校を定年退職し、教職大学院に赴任して参りました。

38年前に教育学部を卒業し、母校に勤務できることを大変光栄に思っております。

教職大学院では、先輩の皆様から御指導・御助言をいただきながら、これまで小学校や県教育委員会で培ってきた経験を生かし、教職大学院で学ぶ院生のため、また、本県教育の発展・充実のため、微力ではありますが、精一杯努力して参りますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



教育学研究科

教職大学院

大瀬幸治

平成31年4月に教職大学院に着任しました。学生時代にお世話になった弘前大学で仕事が出来ることを大変光栄に思っています。これまで32年間数学教員・管理職として青森県内の高校に勤務して参りました。この経験を生かしながら、教員を目指す学部卒院生並びに学校の中核として活躍する現職教員院生とともに青森県の教育課題に真正面から向き合い、目指すべき4つの力の養成に努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

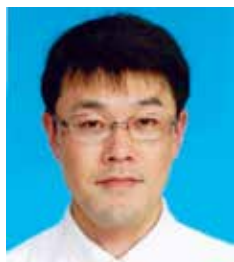


医学研究科

脳神経内科学講座

富山誠彦

青森県立中央病院勤務から10年ぶりに弘前に戻ってまいりました。岩木山の美しさに改めて感動しています。私は静岡市の出身ですが、一度は雪が降りかつお城がある街に住んでみたいと思い、弘前大学に進学、そのまま青森に居ついてしまいました。趣味は城めぐりと旅行、そして日蝕ハンターでもあります。脳神経内科は奥深く、やりがいのある分野です。楽しく学べる脳神経内科を目指したいと思っています。



農学生命科学部

食料資源学科

津田治敏

2019年3月に農学生命科学部食料資源学科に着任しました。専門は乳・乳製品および食肉を主とする畜産物の利用です。乳は栄養価が高く、風味が良く、廉価であるため食品として高価値です。栄養価が高いため、汚染細菌にとって絶好の培養基となり得ます。そこで、乳酸菌や酵母などを用いて汚染細菌を制御する方法を研究しています。研究を通じて食品衛生の教育と地域産業への貢献を達成できるよう努力してまいります。



農学生命科学部

食料資源学科

樋口智之

2019年3月1日付で、農学生命科学部食料資源学科に着任いたしました。これまで水産物を中心にタンパク質化学、脂質栄養学、食品化学に係わる研究および管理栄養士の養成に従事してきました。これからは、主に地域の未・低利用食素材の有効利用を主眼とした研究・教育に貢献したいと思っております。生まれも育ちも北国ですが、大学院修了後は茨城、埼玉、岡山で過ごし、ご縁があって再び北国に戻ることができたことを喜びに感じています。

face 員紹介

たに加わりました

new face

新任教員紹介

12名の教員が新たに加わりました



被ばく医療
総合研究所

放射線化学部門

赤田尚史

4月1日付けで被ばく医療総合研究所放射線化学部門に着任いたしました。

専門は放射化学・環境放射生態学で、環境中における放射性物質の移行・蓄積と被ばく線量評価、施設周辺環境のモニタリングとその手法開発に関する研究を行ってきました。

今後は、被ばく線量評価のための化学的アプローチを主とした研究と教育に取り組んで参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。



地域戦略研究所

新エネルギー研究部門

若狭 幸

4月1日付で青森キャンパス地域戦略研究所の地球熱利用総合工学研究室に着任いたしました。

地熱発電の可能性を探るための地表面探査を、地形学やGIS、リモートセンシングなどの手法を使って実施しています。また、温泉水や地中熱など、熱資源の活用法の開発研究全般に取り組んでいくつもりです。

青森県の産業や自然、資源を利用した地域振興に貢献していけるよう、努めていきたいと思えます。

どうぞよろしくお願いいたします。





令和元年度 弘前大学学生ボランティア活動 助成団体採択書交付式を実施



交付式後の記念撮影

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を令和元年6月12日（水）に事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、佐藤学長から今年度申請のあった7団体の各出席者一人ひとりに活動助成費採択書が手渡されました。続いて、各団体出席者から日頃の活動内容について、紹介がありました。

佐藤学長からは、学生の日頃の活動への感謝と学生の今後の活動に期待する言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体出席者から、新入生の加入状況、ボランティア活動実施にあたって大学に協力してほしいこと等について、率直な意見交換が行われました。



令和元年度 ボランティア活動助成団体

団 体 名	申請代表者名	所属学部
環境サークル わどわ	川 原 優 輝	理工学部
さくらボランティア	斉 藤 侑 花	教育学部
SaBoTen (サボテン)	齋 藤 優 璃	農学生命科学部
teens & law	松 木 る い	教育学部
児童文化研究部 KIDS'	三 浦 カンナ	農学生命科学部
ひまわりサークル	宮 崎 舞 咲	医学部保健学科
僻地教育研究会	工 藤 功 織	教育学部

編 集 後 記

新たな元号がスタートしました。平成の30年間を振り返ってみると、バイオテクノロジーや情報通信技術など、この間に起きた数々の技術革新によって、私たちの生活や社会が大きく変化したことに驚かされます。

インターネットの普及は、大量の情報を瞬時に入手することを可能にし、いまや研究を行なう上でも必須のツールになっています。ちょっと調べ物をしたとき、わざわざ図書館に行って大量の本とにらめっこをしなくても、スマホ1つで知りたい情報に簡単にアクセスできます。いい時代になった、よかった、よかった、とはならないですね。

玉石混淆の情報の渦から真に必要なものを見つけ出すためには、情報の信頼性を評価する優れた目が必要になります。新入生

の皆さんはこれから、レポート作成のため何かを調べる機会がたくさんあると思います。急がば回れ。安易にネットに頼らず、まずは時間をかけて自ら調べる力を養うことが、情報化社会と上手く付き合う武器になるかもしれません。

「令和」最初の学園だよりは『新学期を迎えて』と題して、新入生の皆さんのフレッシュな声とともに、先輩学生と教員からの応援メッセージをお届けしました。僭越ながら私からも、新たな時代とともに大学生活を始められた皆さんに、ある先人の言葉を贈りたいと思います。

“飛ぶためには抵抗がなければならない”
誰の言葉が気になった人はググってみましょう。いや、まずは自分で調べましょう。

(曾我部)

弘前大学生協が行う“学生成長支援”

新入生サポートセンター「大学生活アドバイザー」

【新入生サポートセンターとは】 新入生と保護者の大学生活への疑問や不安に答えながら4(6)年間の過ごし方と、充実した大学生活に必要なモノやサービスを提案しています。
2019年度新入生サポートセンターでは1,276名の方にご来場いただきました。



大学生活アドバイザー 年間活動

4～5月
大学生活アドバイザー
募集・面接・選考

6月～
月2～3回程度 研修会

2月～4月中旬
サポートセンター営業

弘前大学生協では大学生の学びや成長を支援する様々な事業に取り組んでいます。

その一つとして、新入生サポートセンターでは「大学生活アドバイザー」が活躍しています。

大学生活アドバイザーとは、自分たちの経験や体験を踏まえ、新入生のより良い大学生活のための提案とアドバイスをします。年間を通してマナーや知識の研修を受け、提案する内容は幅広く、大学の勉学はもちろん、日常生活や住まい、食事、将来に向けたスキルアップの他に、実際に大学生活を送る学生やその保護者の方の不安や疑問にもお応えしています。



新生活用品 内覧会

実際に触ってみて
使い心地を確かめ
ています。

【研修会内容】

生協の「共済・保険」「食」「大学生の学び」「将来に向けて」「住まい」「コミュニケーション」「ロールプレイング」など新学期ドットコムがチームリーダーとなり1チーム5～6名で研修を受けています。研修会以外にも講座体験や見学などの機会を設け、提案に役立っています。

住まい巡り
部屋の特徴、提案の
仕方など確認してい
ます。



職員ロールプレイング

職員を保護者に見立て、通して提案
をしています。
マナーや商品説明はもちろん、質問
にどう答えるかなど自分がどれだけ
提案し、応えることができるかを知る
機会になります。

経験を積むほど、「伝えたいコト」が増え、「伝える」コトの難しさを感じています。また「伝える」提案の時間が一番楽しい時間でもあります。

アドバイザーは提案を終えるとすぐに、必ず新学期ドットコムのメンバーとフィードバックを行います。1年目はアドバイザーとして、自分の提案内容について考え、自分の反省ばかりを行ってききましたが、新学期ドットコムとなりアドバイザーへのサポートをするようになって、新たに学ぶことが増え、結果自分の気づきや成長にも繋がりました。

携わるほど学びと楽しみが増え、やりがいを感じています。



新学期ドットコム
理工学部3年 小野謙暉
(写真後列真ん中)



※新学期ドットコムは

アドバイザーのリーダーグループです。

大学生活アドバイザー 約50名

新学期ドットコム 約35名



弘前大学
学園だより

vol.196 / 2019年6月発行 題字：佐藤 敬 学長
編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会
委員長 / 平野 潔 (教育委員会)
委員 / 小杉 雅俊 (人文社会科学部)
武内 裕明 (教育学部)
丹治 邦和 (医学研究科)
細川 翔太 (保健学研究科)
佐々木一哉 (理工学研究科)
曾我部 篤 (農学生命科学部)
三上結美子 (学生課)
成田 知子 (学生課)

印刷：コロニー印刷

弘前大学 検索

トップページ ▶ 弘前大学について ▶ 広報 ▶ 刊行物・広報誌 ▶ 学園だより
バックナンバーをご覧ください。

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: jm3113@hirosaki-u.ac.jp